

中学校外国語科におけるICTの活用について

単元：身近な人物について紹介する(第1学年)

★「書くこと」に重点をおいて指導した単元です。

ツール・機能：学習管理ツール(Microsoft Teams、Google Classroom など)

辞書アプリ、翻訳アプリ など

ビデオ機能

クラウドストレージ(One Drive、Google ドライブ など)

Webブラウザ機能

分類：協働活動

※この単元の授業づくりの詳細は、当センターがHPIにアップしている令和3年度発信コンテンツ「授業が変わる！評価が変わる！これからの中学校英語科における授業づくり～指導と評価編～」を参考にしてください。

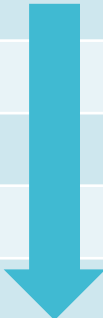
https://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/r3/01_syo_chu_kakukyouka/02_cyu_eigo/2/01_jirei_02.pdf



○ 単元の目標

ALTに身近な人物についてよりよく知ってもらうために、事実や情報を整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。

○ 単元計画(全7時間)及び1人1台端末の活用場面

時間	主な言語活動等	活用場面〔ツール・機能〕
1	■単元の目標を理解する。 ■身近な人物(憧れの人)について紹介する。	活用場面① :発表のモデルとなる動画視聴 〔学習管理ツール(Microsoft Teams, Google classroom など)〕 活用場面② :伝えたい表現調べ 〔辞書アプリ、翻訳アプリ など〕
2	■身近な人物(人気アスリート)について紹介する。	
3	■身近な人物(学校の先生)について紹介する。	
4	■身近な人物(町内の有名人)について紹介する。	
5	■身近な人物の1日の生活について紹介する。	
6	■グループで身近な人物について紹介する。	活用場面③ :発表の録画 〔ビデオ機能〕 〔学習管理ツール(Microsoft Teams, Google classroom など)〕
7	■ALTに身近な人物について紹介する。	
後日	■発表の鑑賞会を行う。	活用場面④ :発表原稿を動画付きで掲示 〔クラウドストレージ(One Drive, Google ドライブ など)〕 〔ブラウザ機能〕

活用場面①：発表のモデルとなる動画視聴【第1時】

○ツール・機能

学習管理ツール(Microsoft Teams, Google classroom など)

○活用のねらい

単元ゴールを明確にイメージし、自己目標を設定することができるように、発表のモデルとなる動画を視聴する。

1人1台端末を活用して発表のモデルとなる動画を視聴することで、生徒1人1人のペースで、動画を途中で止めたり、繰り返し視聴したりしながら、よい点を確認することができます。



○活用の流れ(例)

(1)フォルダから発表モデルの動画データを取り出し、視聴します。その際、発表モデルのよい点を確認します。



(2)(1)で確認した発表モデルのよい点をグループや全体で共有します。



(3)(2)を踏まえて、自己目標を設定します。



活用場面②:発表における資料提示【第1時～第5時】

○ツール・機能

辞書アプリ、翻訳アプリ など

○活用のねらい

身近な人物を紹介する表現を増やすことができるように、ペアで紹介する際に英語で表現できなかった語句や文を個別に調べる。

1人1台端末を活用して伝えたい表現を個別に調べる機会をもつことで、生徒1人1人のニーズに応じた学習を進めることができます。



○活用の流れ(例)

(1)ペアを替えながら、身近な人物について伝え合う。



(2)身近な人物を紹介する際に、英語で表現できなかった語句や文を辞書アプリなどで個別に調べる。



(3)(2)で調べた語句や文を付け足して身近な人物の紹介文を書く。



活用場面③：発表の録画【第6時】

4

○ツール・機能

ビデオ機能
学習管理ツール(Microsoft Teams, Google classroom など)

○活用のねらい

自分の発表の改善点に気付いて修正できるように、発表の様子を撮影し、視聴する。

○活用の流れ(例)

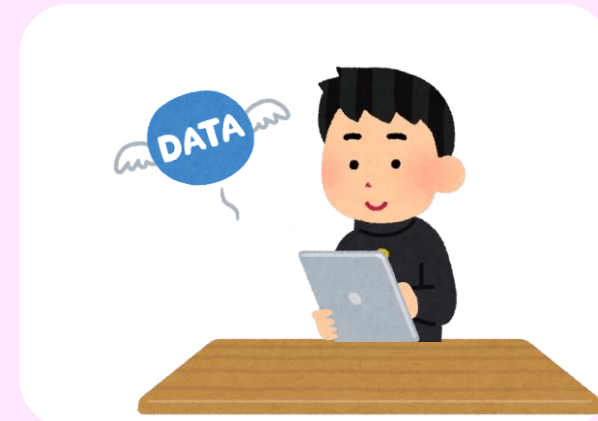
(1)身近な人物について、グループで発表し、その様子を1人1台端末で撮影します。



(2)発表した英文を手書きで書き起こしたあと、撮影した映像を見ながら、英語使用の正確さ(言語面)などをペアで協力して確認し、英文を修正します。



(3)修正した英文を入力して、教師に送信します。教師は、生徒が提出した英文をチェックし、生徒にフィードバックします。



1人1台端末を活用して自分のパフォーマンスを客観的に振り返る機会をもつことで、自己の学習を調整しながら言語活動に取り組むことができるようになります。また、生徒が提出したデータは、[指導に生かす評価]に生かすこともできます。



活用場面④：発表原稿を動画付きで掲示【後日】

○ツール・機能

クラウドストレージ(One Drive、Google ドライブ など)
Webブラウザ機能(二次元バーコード作成)

○活用のねらい

効率よく鑑賞会を行うために、発表原稿を動画付きで掲示する。

○活用の流れ(二次元バーコードを用いた掲示物作成の例)

(1) Webブラウザ機能を用いて、クラウドストレージに保存した動画の共有URLを二次元バーコードに変更します。



(2) 発表原稿を清書し、印刷した二次元バーコードを貼り付けます。



(3) 発表原稿を掲示し、発表の鑑賞会を行います。
二次元バーコードを読み取り、クラスメイトの発表動画を視聴します。



発表原稿を動画付きで掲示することで、発表原稿と発表動画両方を効率よく鑑賞することができます。また、生徒1人1人のペースで、動画を途中で止めたり、繰り返し視聴することができます。

保護者が視聴できるように、授業参観日に掲示したり学級通信などで配付したりしてもよいですね。

